

鈴鹿 宇賀溪 ホタガ谷

2013年9月8日(日) 小雨のち晴れ
メンバー：L池田T(記)、廣瀬、坂野

ホタガ谷は鈴鹿の中では登攀要素が強い沢である。特に前半の1/3はアルパインクライミングのようだった。中間部の河原は水害の影響でかなり荒れており、沢沿いの「裏道登山道」は所々で崩れて道とはいえない状況だった。終盤は快適に登れる小滝が続き、最後は笹原になって遠足尾根に合流する。

前夜から雨が降っていたが増水の気配は無かった。泳ぎは無く、高巻きしたのは滝は1箇所だけ。他は全て直登した。ヒルは多く、3人共たかられた。ただ実際に血を吸われて流血したのは坂野君だけだった。

当日朝に浜松を出発して三重県いなべ市の宇賀溪へ。駐車場が有料(500円)だと知っていたので50mほど手前の国道沿いの駐車帯に車を停めた。ところが入山届けを出す所で「環境保全協力費(200円/人)」を求められた。駐車料金を払った場合は協力費は免除になるという。我々3人組の場合は100円の損になってしまった。でも管理人からは登山ルート の状況を聞けたのでよしとした。



ここまでは遊歩道を歩き、橋をくぐって入溪



すぐに現れる6m滝。左側を登った

序盤は暗い雰囲気の下廊が続く。同じ鈴鹿でも赤坂谷などの明るくて開けた沢とは対照的である。まもなく核心とされる15m滝に出会う。左側の凹角を坂野トップで登る。ハーケンおよびシュリングが数箇所残置されていた。岩は濡れており、緊張感があるクライミングである。その後、小滝をいくつか越えたと再びロープの出番。二段13m滝である。



核心とされる15m滝



二段13m滝の下段。ほぼ垂壁

下段はホールドがあるのでなんとか登れる。(ハーケンあり)。上段はツルツルで登るのはムリ。左の壁から高巻きした。風化した花崗岩が脆くなっているのでホールド・スタンスに要注意。



上段の滝の左側。今回唯一の高巻き箇所



ミニゴルジュ

周囲を壁に囲まれた廊下が終ると緩やかな傾斜になって周囲は植林帯になる。水害の影響であろう、沢はかなり荒れていた。標高600mあたりから再び沢登りらしくなる。しばらくは快適な小滝登りが続く。



沢の中間部はかなり荒れている



快適に登れる小滝群

やがて最後の難所、30m滝に出会う。真正面のシャワークライミングは避けて、右側の壁を登った。ここは残置ハーケンは無かったのでナッツを使用。ここも坂野君がトップで行った。出だしの数歩が難しかった。



30m滝。写っていない右の壁から登った。



水量が減ると同時に周囲が明るくなってきた

どんどん登っていくと水流は途絶え、笹の中の道になる。稜線に上がった所で沢装備を解き、竜ヶ岳の山頂を目指す。山頂はあいにくガスに包まれて視界が悪く、展望は得られなかった。帰りは遠足尾根を下った。裏道登山道のほうが距離は短い、所々で崩れているのでかえって時間がかかるだろう。沢治いなのでヒルの襲撃も必定である。



稜線までもうすぐ



遠足尾根を下る

帰宅後、荷物の片づけ中にヒルを2匹発見。尾根に出てからは見かけなかったので遡行中に忍び込んだとみられる。被害が無かったのが幸이었다。

<タイム> 駐車場7:45-ホタガ谷出合8:15-10m滝 8:45-30m滝 12:00-稜線13:15-竜ヶ岳山頂13:40~13:50-遠足尾根-駐車場15:35

鈴鹿 ホタガ谷 【重要】 ルートラボは2020年3月末にサービスを終了します。
詳細は[こちら](#)をご覧ください。

